



アドビシステムズ社、 ADOBE TECHNICAL COMMUNICATION SUITE 2 を発表

新バージョンの ADOBE FRAMEMAKER、ADOBE ROBOHELP、
ADOBE CAPTIVATE を含む、完全な統合ソリューション

【2009年1月27日】

アドビシステムズ株式会社は、技術情報やトレーニングコンテンツを複数のフォーマットや言語で作成、管理、配信することができるソリューションのメジャーアップグレード版である「Adobe® Technical Communication Suite 2 (アドビ テクニカル コミュニケーション スイート)」(Windows® 版)の日本語版の提供が、2009年3月上旬から、アドビストア (<http://www.adobe.com/jp/store/>) および全国のアドビ製品取り扱い企業を通じて開始されると発表しました。アドビストアでは本日より予約受付を開始します。

今回の新製品では、従来対応していた3Dファイルの他に、Flash® Video、AVI、MP3、SWFなどのリッチメディアに対応したことにより、説得力のある表現力豊かな資料、トレーニング教材や Web 対応のヘルプのためのコンテンツを制作することができます。

Technical Communication Suite 2 には、Darwin Information Typing Architecture (DITA) に対応した、オーサリングおよびパブリッシングツールのメジャーアップグレード版である「Adobe FrameMaker® 9 (アドビ フレームメーカー)」(Windows 版)、ヘルプシステムおよびナレッジベース作成ツールのメジャーアップグレード版となる「Adobe RoboHelp™ 8 (アドビ ロボヘルプ)」(Windows 版)、e ラーニングコンテンツ作成ツールの強力なアップグレード版である「Adobe Captivate™ 4 (アドビ キャプティベート)」(Windows 版)、世界中で幅広く利用されているデジタル画像処理ソフトウェア Adobe Photoshop® CS4 と Adobe Acrobat® 9 Pro Extended も含まれています。

アドビシステムズ社のプリント & パブリッシングマーケティング担当ディレクターであるサンジューヴ ガドレ (Sanjeev Gadre) は、「Technical Communication Suite 2 により、生産性を向上し、FrameMaker、RoboHelp および Captivate との連携をより緊密にしたいというテクニカルコミュニケーション担当者のニーズに対応します。技術資料の読者からは画像による豊かな表現力が求められており、テクニカルコミュニケーター、ヘルプの作成者、教育担当者および情報に関わるすべての専門家は、今回 Technical Communication Suite 2 に新しく加わった Photoshop CS4 を使って、さらに表現力豊かなビジュアルコンテンツを作成できるようになります」と述べています。

Technical Communication Suite 2 は、生産性の向上に加え、技術資料の執筆、制作、配信のための XML ベースの規格である Darwin Information Typing Architecture (DITA) のサポートをはじめとする規格に準拠したオーサリングに対応したソリューションです。これにより表現力豊かなコンテンツを作成し、XML/HTML、印刷媒体、PDF、WSF、WebHelp、FlashHelp™、Microsoft® HTML Help、OracleHelp、JavaHelp および Adobe® AIR® など、特定の用途やフォーマットに合わせて出力することができます。

FrameMaker 9 には洗練されたインターフェイスが用意されているため、複雑で文章が長いコンテンツも、執筆から構成、レビューおよび書き出しまで容易に行うことができます。階層的なブックと業界標準の DITA 1.1 がサポートされ、トピックベースのコンテンツを簡単に作成することができます。また FrameMaker 9 は非構造化、構造化および DITA コンテンツをワークフロー上で中断することなく集約するという独自の機能を備えているため、コンテンツ作成者は PDF を活用したレビューワークフローにおいて、コメントの集約やコンテンツ作成に必要な時間と労力を削減することができます。FrameMaker 9 を利用することで、保存されているコンテンツへのアクセスと検索も可能であるため、企業のコンテンツマネジメントシステムに対するこれまでの投資が活かされることとなります。

RoboHelp 8 は、XHTML 対応のプロフェッショナルなヘルプコンテンツを容易に作成するために不可欠な新機能を備えているほか、自動化のサポート、シングルソースオーサリング、および FrameMaker と Microsoft Word との緊密な統合によって生産性を高めることができます。また、リストとテーブルの制作における新しい直観的な CSS エディタ、ページ機能が強化されました。さらにテンプレートが拡充され、新しい検索機能も搭載されているため、ユーザーはコンテンツの検索作業がさらに容易になりました。コンテンツを通してオンラインとオフラインいずれにおいてもシームレスなユーザー体験を提供すると同時に、表現力豊かなコンテンツの RSS フィードやコメントにも対応する Adobe AIR をはじめとする、複数のオンラインヘルプフォーマットに書き出すことができます。

InfoTrends の OnDemand Printing & Publishing、Jetting Technology Opportunities および Wide Format Printing Consulting Services 担当グループディレクターであるジム ハミルトン (Jim Hamilton) 氏は、「エンドユーザーは、マニュアルなどの書類の端から端まで読むことを望みません。そうしたユーザーのニーズに対応するように技術資料の市場は、急速な変化を遂げています。アドビシステムズ社は、幅広いツールセットの提供者であると同時に、市場の進展に沿ったビジョンを備えた企業ならではのアプローチを取っています。Technical Communication Suite 2 を使えば FrameMaker、Photoshop、Acrobat、RoboHelp および Captivate の強みを活かし、技術資料作成に携わる人々に魅力あるソリューションを提供することが可能です」と述べています。

Adobe Technical Communication Suite 2 に関する詳細情報は <http://www.adobe.com/jp/technicalcommunicationsuite> をご覧ください。

※構成製品の詳細についても上記 URL にてご確認ください。

その他構成製品の詳細については以下の Web サイトをご参照ください。

Adobe RoboHelp 8

<http://www.adobe.com/jp/robohelp>

Adobe FrameMaker 9

<http://www.adobe.com/jp/framemaker>

Adobe Captivate 4

<http://www.adobe.com/jp/captivate>

アドビストア提供価格（送料別）

Adobe Technical Communication Suite 2（Windows 版）

■通常版	273,000 円（本体価格 260,000 円）
■アップグレード版 ^{※1}	136,500 円（本体価格 130,000 円）
■特別提供版 ^{※2}	185,850 円（本体価格 177,000 円）
■アカデミック版	136,500 円（本体価格 130,000 円）

※1 アップグレード版の対象ユーザーは、Adobe Technical Communication 1.x 日本語版の正規ユーザー。

※2 特別提供版（単体製品からのアップグレード）の対象ユーザーは、Adobe FrameMaker 7.x/8.0/9.0、Macromedia RoboHelp Office X5 英語版、Adobe RoboHelp 6 英語版、Adobe RoboHelp 7 日本語版または英語版、Adobe RoboHelp 8 日本語版または英語版（英語版から日本語版へのアップグレードが可能）、Macromedia Captivate、Adobe Captivate 2/3/4 の正規ユーザー。

Adobe RoboHelp 8（Windows 版）

■通常版	153,405 円（本体価格 146,100 円）
■アップグレード版 ^{※3}	76,650 円（本体価格 73,000 円）
■アカデミック版	55,335 円（本体価格 52,700 円）

※3 アップグレード版の対象ユーザーは、Macromedia RoboHelp Office X5 英語版、Adobe RoboHelp 6 英語版、Adobe RoboHelp 7 日本語版または英語版の正規ユーザー。

注：英語版から日本語版へのアップグレードが可能です。

Adobe FrameMaker 9（Windows 版）

■通常版	138,075 円（本体価格 131,500 円）
■アップグレード版 ^{※4}	43,365 円（本体価格 41,300 円）
■アカデミック版	35,385 円（本体価格 33,700 円）

※4 アップグレード版の対象ユーザーは、Windows 版およびUNIX 版ならびに Macintosh® 版の FrameMaker 7.x および 8.0 日本語版の正規ユーザー。

注：UNIX 版ならびに Macintosh 版ユーザーの方は Windows 版の FrameMaker 9 にアップグレードできます。

Adobe Captivate 4（Windows 版）

■通常版	90,300 円（本体価格 86,000 円）
■アップグレード版 ^{※5}	45,150 円（本体価格 43,000 円）
■アカデミック版	36,750 円（本体価格 35,000 円）

※5 アップグレード版の対象ユーザーは、Macromedia Captivate、Adobe Captivate 2/3 日本語版の正規ユーザーです。

必要システム構成

Adobe Technical Communication Suite 2 (Windows 版)

- 1.8 GHz 以上のプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ
- Microsoft Windows XP (Service Pack 2) 日本語版 (Service Pack 3 を推奨)、または Windows Vista® (Service Pack 1) 日本語版 (32-bit 版でも動作)
- 1GB 以上の RAM (2GB 以上を推奨)
- 6.5GB 以上の空き容量のあるハードディスク。ただし、インストール時には追加の空き容量が必要 (フラッシュメモリを利用したストレージデバイス上にはインストール不可)
- 1,024 × 768 以上の画面解像度をサポートするディスプレイ (1,280×800 以上を推奨)、および 16-bit 以上のビデオカード
- GPU を利用する一部の機能では Shader Model 3.0 と OpenGL 2.0 対応のグラフィックカードが必要
- Adobe Bridge の一部の機能を使用するには、DirectX 9 互換の 64MB 以上の VRAM を備えたグラフィックカード
- DVD-ROM ドライブ
- マルチメディア機能を利用するために QuickTime® 7.4.5 日本語版
- 付随するサービスのためにブロードバンドインターネット接続

Adobe RoboHelp 8 (Windows 版)

- 1GHz 以上のプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ
- Microsoft Windows XP (Service Pack 2) 日本語版 (Service Pack 3 を推奨)、または Windows Vista (Service Pack 1) 日本語版 (32-bit 版でも動作)
- 512MB 以上の RAM (1GB 以上を推奨)
- 1.2GB 以上の空き容量のあるハードディスク。ただし、インストール時には追加の空き容量が必要 (フラッシュメモリを利用したストレージデバイス上にはインストール不可)
- 1,024 × 768 以上の画面解像度をサポートするディスプレイ (1,280×800 以上を推奨)、および 16-bit 以上のビデオカード
- DVD-ROM ドライブ

Adobe FrameMaker 9 (Windows 版)

- 1GHz 以上のプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ
- Microsoft Windows XP (Service Pack 2) 日本語版 (Service Pack 3 を推奨)、または Windows Vista (Service Pack 1) 日本語版 (32-bit 版でも動作)
- 512MB 以上の RAM (1GB 以上を推奨)
- 1.1GB 以上の空き容量のあるハードディスク
- DVD-ROM ドライブ
- 1,024 × 768 以上の画面解像度をサポートするディスプレイ

Adobe Captivate 4 (Windows 版)

- インテル® Pentium 4、インテル Centrino®、インテル Xeon®、インテル Core™ Duo クラスのプロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ
- Microsoft Windows XP (Service Pack 2) 日本語版 (Service Pack 3 を推奨)、または Windows Vista Home Premium、Business、Ultimate、Enterprise (Service Pack 1) 日本語版 (Windows XP、Windows Vista とともに 32-bit 版に対応)

- 512MB 以上の RAM (1GB 以上を推奨)
- 1.5GB 以上の空き容量のあるハードディスク (ただし、インストール時には追加の空き容量が必要 (フラッシュメモリを利用したストレージデバイス上にはインストール不可))
- DVD-ROM ドライブ
- 800 × 600 以上の画面解像度をサポートするディスプレイ (1,024 × 768 を推奨)

アドビ システムズ社について

アドビ システムズ社は、時間や場所、利用するメディアや機器を問わず、あらゆるユーザーの、アイデアや情報との関わり方に変革をもたらしています。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.com/jp> に掲載されています。